

阿蘇フォーラム

第一回まるごとフェスタ 経過・結果報告と今後に向けて
(阿蘇フォーラム設立3ヶ月を振り返る) H13年12月10日

概観

初めに

阿蘇フォーラムの立ち上げと3ヶ月間の推移、そして第一回まるごとフェスタの内容について、その趣旨と目的に照らして中間評価をしたいと思います。

阿蘇フォーラムの趣旨

- 1) 検証 阿蘇の何がどのように素晴らしいかをちゃんと知る。
- 2) 地域ビジョン それをどう活用すればみんなが幸せになるかを考える。
- 3) 「共有化と具体化」 そのための人の交流と情報共有の共通の場を作る。

主な活動

- 1) 情報の共有のための会報(情報誌、メーリングリスト、メールマガジン、ホームページなど)を発行する。
- 2) 分科会やシンポジウムなどを通してそれぞれの活動を発表し合い学ぶ。
- 3) 交流の祭典「まるごとフェスタ」を年一回開催する。

運営委員会の流れ

4月19日	阿蘇が好き座談会	西巖殿寺にて
7月12日	フォーラム準備委員会	西巖殿寺にて
8月29日	フォーラム準備委員会	佐田の海にて
9月7日	フォーラム準備委員会	阿蘇青年会議所にて
9月14日	フォーラム設立総会	阿蘇青年の家にて
10月1日	1) 運営委員会	阿蘇青年の家にて
10月9日	2) 運営委員会	阿蘇青年の家にて
10月16日	3) 運営委員会	阿蘇青年の家にて
10月31日	4) 運営委員会	阿蘇青年の家にて
11月15日	5) 運営委員会	阿蘇青年の家にて
11月26日	6) 運営委員会	阿蘇青年の家にて

その他の作業ミーティング

このほかにも、名簿づくりや発送、「あそぼうよ」編集会議、各部会打ち合せなどを、担当の方たちがそれぞれに行われています。

情報誌の発刊

稲崎さんを編集長にし、阿蘇の情報交換と人的交流を図るために、年4回の発行を目指す情報誌「あそぼうよ」を、11月に発刊しました。

創刊号の内容的はA 阿蘇フォーラムの設立を宣言する部分と、B まるごとフェスタの告知と集客を目的とする部分、に分かれました。

さらにフェスタの告知の内容も、B-1 基調講演と分科会の内容を詳しく紹介して学びへの参加を呼びかける部分と、B-2)イラストを使ってバルーンなどの体験や出店のある楽しい見本市への参加を呼びかける部分とに分かれました

創刊号の印刷は18000部。うち16000部を11月27日に阿蘇郡内の熊日新聞に折込み配布。200部を各団体に郵送。その他は各方面への配布。

内容的に3つの部分を4ページにまとめたので、結果として少し分かりにくい構成になりました。

名簿づくり

団体

キーパーソン

過去の参加者など

関係者

発送

運営委員会にての作業

事務局・青年の家にての作業

フェスタの目的と構成

1) H13年9月14日に、阿蘇が大好きな人たちの交流と情報共有の場として阿蘇フォーラムが設立されましたが、その後3ヶ月足らずでの第一回フェスタということで、限られた日数と準備作業の中で、今年はずまず今後に向けての年に一度の発表と交流の祭典としての「まるごとフェスタ」の基本的枠組みを作る事に主眼が置かれました。

2) その枠組みとしては昨年までの 学びのシンポジウムの流れと、より多くの人を楽しめる交流の場にしていくという二つの流れをまとめる事が求められ、結果として一日目の学びの場としての 阿蘇自由学校(基調講演と分科会)、二日目の交流の祭典として 阿蘇見本市という二本立ての形になりました。

3) それぞれに担当副委員長として、梶原さんと井芹さん(途中病氣入院のため、小野さんが代理を務める)が決まりました。

阿蘇自由学校（学び）

基調講演

構成

- 1) 基調講演は A 質の高い新しい視点を阿蘇にもたらすと共に、B 多くの人にアピールする事という二つの内容が求められます。
- 2) しかしそれを同時に満たすのは、今回は人選においても時間的にも難しい状況でした。今回は人集めではなく A 内容の質の高い講演に力点が置かれることになりました。
- 3) 青年の家の大瀧所長の推薦によって樋口先生が決定しました。

内容

中谷宇吉郎と雪の話
雪氷圏の話
光害の話

評価

- 1) 参加者は40名ほどで、会の規模としては非常に少なかった。
- 2) 直接阿蘇に言及する内容ではないが、学会では高名な先生であり、皇太子の第一子のご誕生の日に合わせた話題や、自然のバランスとそのもろさ大切さとそれをめぐる人の話など、大変興味深かった。
- 3) 来年は前もって人選をすすめ、十分な集客を図ることが必要で、そのためには、阿蘇の話題に関係のある内容で、一般の方にも知名度の有る講師を招聘することも良いように思われます。

分科会

構成

- 1) さまざまな団体やグループが、日ごろの活動の成果を発表したり、問題提起をして議論や作業をする場としての分科会を主催する、というのが本来の目的です。
- 2) 今回は一般からの分科会主催の申込み受付も形式的には行いましたが、時間的に余裕がなく申し込が無かった事もあり、従来からの分科会の流れと、阿蘇青年会議所の問題提起という形で、運営委員会内部の主催による3つの問題提起の分科会の形になりました。
- 3) また分科会をどう運営するかについて、討論会形式であるのか 発表会(学会)形式にするかで議論がありましたが、今回は町村合併の分科会が独自にワークショップを展開している事もあり、討論会形式の町村合併の第一分科会と 発表会形式の第二、第三の二つの分科会という2形式並列形になりました。
- 4) また、いくつも同時並行の分科会があっては希望する他の分科会に出られな

いなど、ひとつの時系列で行うスクール形式にして欲しいという要望も有りましたが、今回は 並列的に行う別個に独立した分科会の集まりである学会形式にし、その代わりに途中の休憩時間を共通にして、他の分科会にも移れるようにしようという事になりました。

またそのために、各分科会の内容を事前に知る事のできる合本した資料集を作って、実費にて全分科会に配布することになりました。

5) こうした資料集をもとにして、その年の自由学校の成果を一冊の報告書にまとめ、毎年その成果を積み重ねていこうという事になりました。

内容

第1分科会)「阿蘇の地域づくり」 - 将来の町村のあり方と合併問題を考える

第2分科会)「草原と人々の暮らし」 - 畜産と地域社会 -

第3分科会)阿蘇水系・上下流域の交流 白川立野ダムをめぐって

評価

参加者人数

結果 少なかった

第1分科会 80名

第2分科会 8名

第3分科会 10名

原因

組織的な動員がなかった

前回参加者に対する連絡が無かった

前回からの積み上げが薄かった

新しいネットワークが作れなかった

情報誌の新聞折込みは、効果が無かった

対策

組織的な動員

関係者のリストアップと連絡

毎年の積み上げをきちんとしていく

新しいネットワークづくり

参加分科会(団体)数

結果

3部会、運営委員外からはなかった

原因

主要構成団体(学びネット、JC、+1、グリーンストック)以外の参加団体が少ない

対策

まだ加入していない団体に呼びかける

形式について

結果 混乱があった

____討論会形式であるのか 発表会(学会)形式にするかについて、事前に「百姓村の山口力男さんが、阿蘇で「狂牛病」について話し合う機会がもてるのはいいことだ、とあって、かなりやる気になられているとお聞きしました。そうすると、もし1部屋を狂牛病について話し合う部屋とするならば、数人が発表して終わりというスタイルでは何も残らないことになり、やはり「活動報告会」ではなく、「討論会」のスタイルでやらねば駄目だということになります。如何でしょうか？」という意見がありましたが、実際も発表会のあと討論会になって大いに盛り上がったようです。

____スクール形式か 学会形式にするかについて、途中の休憩時間を共通にして、他の分科会にも移れるようにしようという予定でしたが、実際には、みな申し合わせを忘れていました。

____分科会資料集を希望者に実費にて配布する予定でしたが、混乱があってそれぞれに違う対応になりました。

対策

事前に部会を立ち上げ、十分に準備することが必要かと思われま

報告書の作成

____毎年フェスタの報告書を印刷し、各方面への報告とすると共に、阿蘇の資産や活動を便覧することの出来る基礎資料として、毎年集成していく。

部会評価

____今回は形式内容について十分準備する時間がなかったせいで混乱が見られたが、基本的枠組みを作る事という主眼については、それなりの成果を挙げられた事と思います。

____今後は、活動の成果の発表や問題意識の作業の場という分科会の本来の趣旨にそって、今回できたそれぞれのネットワークを発展させ、また新しい団体などの参加を図るなど、来年のフェスタに向けて作業を進める事によって、今回の成果を十分に発展させられると思われま

交流会 & 夜なべ談義

内容

参加人数 50名ほどで十分多かった
交流の促進 大変盛り上がっていたように思います

評価

今後もより広い範囲の方にお集まりいただけるよう、期待したいと思います。

見本市

目的

阿蘇の芸能や日ごろの活動の成果、また主張などを発表をし、情報交換と人の交流の場を作るとというのが本来の目的です。

ステージ

構成

7団体

内容

和太鼓あり、英語劇あり、洋楽あり、でバラエティに富んでいた。

評価

大変楽しいステージばかりで、会場の賑わいに大きく貢献していたと思われる。心打たれるステージもあり、今後もこうした団体の発表が楽しみだ。

ブース

構成

発表・展示 12ブース
出店 12ブース
飲食 7ブース

内容

バランス的にも良く、内容もそれぞれの特色が出ていた。

参加者 多かった

原因

情報誌の新聞折込みを見てきた

対策

一般への告知に力を入れる

評価

飲食とフリーマーケットは質・量ともに良く大変にぎわっていたが、展示コーナーは人通りが少なかった。

展示の数や発表の仕方などについて、来年は検討の必要がある。

体験

構成

熱気球
フリークライミング
餅つき大会
クラフトコーナー
 バルーンアート
 夢屋の工作

内容

どれも楽しい内容で、特に子ども達が多く参加していた。

評価

思った以上に参加が多く、子ども達の楽しそうな様子が印象的だった。
フェスタの趣旨が良く出ていたコーナーだったのではないかと。

部会評価

- 1) 当初、講堂、体育館、交流棟の3つに分けて行う予定でしたが、集客に不安があったので、全てを体育館で行うことにより、賑わいを出そうということになり、それは結果的に成功であったと思います。
- 2) ステージやブースの準備と撤収について、業者にまかせず自分たちで行った部分については時間・労力共に大変だったと思います。
- 3) フェスタを成功させる事はもちろんですが、それ自体が目的ではなくて、多くの人や団体のつながり会いをもたらすことが大事だという点について、当日はそうした出会いのインフォメーション機能を事務局がちゃんとやれていたかは疑問です。
- 4) とにかく、楽しい交流の場となり、大人も子どももとても楽しんでいたのが、最大の成果だったと思われます。
- 5) 入り口での記帳は250名ほどあり、家族連れが多かったことを考えると少なくとも500名以上の来場は有ったものと思われる。

全体評価

阿蘇フォーラムの趣旨に沿うための今後の活動

情報の一元化

全体

阿蘇の情報を内外の人がちゃんと受け取れるようにしたいというのが、阿蘇フォーラムの設立の動機の一つでした。それをするためには、まず

情報の収集網を整備する

情報の加工・編集の体制を作る

情報発信のハードとソフトの体制をつくる、といった事が必要です。これは、阿蘇のほかの団体や機関で同じことをされている所もあるので、それらと連携しながら、ひとつのものとして立ち上げていくのが望ましいと思われます。

情報誌

「あそぼうよ」の第2号の発行は2月初旬を予定しており、まるごとフェスタの報告と、団体や個人の活動の紹介など、フォーラムの趣旨に沿った内容を、いよいよ本格的に行いたいと思います。

インターネット

ホームページやメーリングリスト、メールマガジンなど、ただ立ち上げるだけでなく、最新情報の提供や運営など、ハード、ソフト両面での対応が、求められます。

今現在のフォーラムの運営体制では力不足の面もありますので、より大きく阿蘇のネットワークを考える中で、フォーラムとしての体制を作っていく必要があります。

ネットワーキング

地域づくり団体が主体の現在のフォーラムですが、農業や観光などいろんな業界団体やグループとの連携が望まれています。交流会や定例会を行いながら、少しずつ輪を広げていくことが、大切だと思われます。また、行政との対話や連携も必要になることと思われます。

運営委員会の発展

フェスタの開催も含め、すべての活動を現在の運営委員の手で運用するのはかなり荷が重いということも有り、運営委員会自体のパワーアップと役割分担が必要です。

事務局機能の強化

情報収集と編集、情報誌の発行、定例会や交流会などのネットワーキングの準備など、事務局の仕事は増える傾向に有ります。

近い将来、事務局の場所や人的体制も含め強化する必要があります。